

2025 年度 NPO 挨拶

伊藤勝陽

昭和 100 年、戦後 80 年、団塊の世代が 75 歳以上となる年になりました。今年を目途に、国は要介護状態が重度になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで送られるようにと地域包括ケアを構築するよう謳ってきました。地域により高齢化の進展状況が異なるなど地域包括ケアには温度差があると思いますが、コロナ禍で医療と介護連携もより密になったところもあるかもしれません。尾道地域（尾三医療圏）では医師会と保健所や急性期病院などがコロナ対策協議会を立ち上げ、コロナの 5 類変更後も対象病院を広げ協議会は継続し個々の病院の役割分担をより明確化しています。

昨年は出世や権力に大きく関わる年、一般的には大きなことが起きる年と言われていましたが、お正月から能登では地震とその後の洪水で大変でした。後半には、日本では首相の交代、アメリカではトランプ大統領の再選、師走に入ってお隣の韓国では 40 年ぶりの戒厳令、シリアではアサド政権崩壊がありました。今年も政治というか民主主義が気になる年になりそうです。

ところで今年の干支は「乙」は十干では甲に次ぐ第 2 位であり、困難があっても紆余曲折しながら進むことや、しなやかに伸びる草木を表しています。柔軟性と適応力を象徴し、また骨べらの意もあり、ほつれた糸を、乙を使ってもつれをほどくこと、「巳」は蛇のイメージから「再生と変化」を意味するそうです。脱皮し強く成長する蛇は、その生命力から「不老長寿」を象徴する動物、または神の使いとして信仰されてきました。

この 2 つの組み合わせである乙巳には、「努力を重ね、物事を安定させていく」といった縁起のよさを表していて成長や変革の年と言われています。

社会情勢は別にしても、今年が皆さまにとり良い年でありますようお祈り申し上げます。